

# 大学英語教育学会（JACET）中部支部 2017 年度春季定例研究会プログラム

日時： 2018 年 3 月 3 日(土) 14 時 00 分～17 時 45 分

会場： 南山大学 名古屋キャンパス R 棟 4F R49 教室

〒466-8673 名古屋市昭和区山里町 18 地下鉄名城線「八事日赤」駅より徒歩約 8 分

開会挨拶 14 時 00 分～14 時 05 分 支部長 村田泰美(名城大学)

実践報告 14 時 05 分～14 時 35 分 司会 鈴木達也(南山大学)

「オーラルコミュニケーションフェスティバル ―学びの成果と今後の展望―

浅野享三(南山大学短期大学部)

ムーディ美穂(名古屋外国語大学)

野村和宏(神戸市外国語大学)

研究発表 14 時 40 分～15 時 10 分 司会 榎木園鉄也(中京大学)

「自己調整学習から見る英語リーディングにおける学習方略」

森 明智(名古屋外国語大学)

研究会研究発表 15 時 20 分～15 時 50 分

【中部 ESP 研究会】

「ESP 研究会(中部)の動向と二次元ドットコード」

馬場 景子(中部大学)

休憩 15 時 50 分～16 時 10 分

講演 16 時 10 分～17 時 40 分 司会 石川有香(名古屋工業大学)

「誤解された ESP とその可能性」

野口ジュディー(神戸学院大学)

閉会挨拶 17 時 40 分～17 時 45 分 副支部長 佐藤雄大(名古屋外国語大学)

## 発表概要

### 実践報告

14 時 05 分～14 時 35 分

#### オーラルコミュニケーションフェスティバル ―学びの成果と今後の展望―

浅野享三（南山大学短期大学部）  
ムーディ美穂（名古屋外国語大学）  
野村和宏（神戸市外国語大学）

JACET オーラルコミュニケーション研究会主催のオーラルコミュニケーションフェスティバル(OCF) は 2017 年 12 月で第 22 回目を迎えた。OCF は、年に一度、同研究会に所属する教員が率いる学生が集い、スピーチや創作劇、群読やオーラルインタープリテーションなど、1 年を通じて練習を重ねてきたプレゼンテーションの成果を他大学の学生の前で互いに披露し合うものである。学生は慣れ親しんだ教室を飛び出し、いつもとは違うオーディエンスの前で発表し、お互いにコメントし合う。発表に至るまでのこれら一連の活動を通して学びを深め、学習動機を高めることに大きな恩恵がある。本発表ではこれまでの取り組みを紹介するとともに、生の聴衆を得て「本番の舞台上で発表する」という経験のもつ意味と今後の展望について考察する。

### 研究発表

14 時 40 分～15 時 10 分

#### 自己調整学習から見る英語リーディングにおける学習方略

森 明智（名古屋外国語大学）

自己調整学習の理論的枠組みは、自律性を伴う学習プロセスを“予見→遂行→自己内省”の3段階のサイクルとして設定し、教室内だけでなく教室外での経験を含めた学習者が行う長期に渡る目標の設定、方略の実践、動機の維持などを研究対象としてきた。本発表では、英語リーディングに際して日本人大学生に使用されている学習方略について自己調整学習の観点から、先行研究では重要視されなかった質問項目を含んだアンケート調査に行い、その因子分析の結果を報告する。加えて各因子得点と英語リーディングテストの結果の相関結果と、上位と下位の読み手の間の自己調整学習方略における相違点から得られる教育的示唆についても報告する。

### 研究会研究発表

15 時 20 分～15 時 50 分

#### 【中部 ESP 研究会】

#### ESP 研究会(中部)の動向と二次元ドットコード

馬場 景子（中部大学）

本発表では、ESP 研究会が取り組んでいる 2 点の研究内容に関して発表を行う。

まず、ESP 研究会は発足当時から工業英語を主幹の研究と位置付けていることから、今年度より公益社団法人 日本工業英語協会との共同プロジェクトを開始した。調査内容は文系学部の学生を対象に、テクニカル・ライティングを指導した場合の学生の英語意識調査の分析を行っている。学生の就職先が科学・技術分野である場合、テクニカル・ライティング指導が重要であることへの裏付けとなる調査であると考えられる。本発表では、この調査の中間報告を行う。

さらに、本研究会が先駆けとなり、現在、科学研究費を活用して行っている二次元ドットコード研究の一端を報告する。

## 誤解された ESP とその可能性 (ESP: a misunderstood discipline with promising possibilities)

野口ジュディー (神戸学院大学)

ESP はよく誤解されています。ネーミングから非常に専門的なものしか扱わないと思われています。もちろん、専門用語、専門文書、例えば、科学時術論文や学会のプレゼンテーション、ビジネス商談なども扱います。しかし、最近の ESP 研究や実践からは、もっと広く応用できることがわかってきました。たとえば、ジャンル分析やコーパス利用の DDL (data driven learning) は一般的なテキストにも利用できます。ニュース記事、映画の紹介文や子供用の物語までジャンル分析にかけると様々な言語特徴が明らかになり、読み方の助けになります。また、DDL で頻繁に使用される共起表現をしり、言語教育に役に立ちます。本講演では ESP の基本概念から応用までをご紹介します。

## 【講師紹介】

野口ジュディー(のぐち・じゅでいー)

神戸学院大学名誉教授。長年、ESP の研究、教材開発と教育に関わる。学部では化学を専攻。渡日後、英語教育に関わり TESOL の M.Ed.の勉強を始める。サイエンスと言語の関係に興味をもち、これがきっかけで科学分野での知識構築方法の Ph.D.研究に従事する。B.A., B.S., University of Hawaii; M.Ed., Temple University; Ph.D., University of Birmingham.

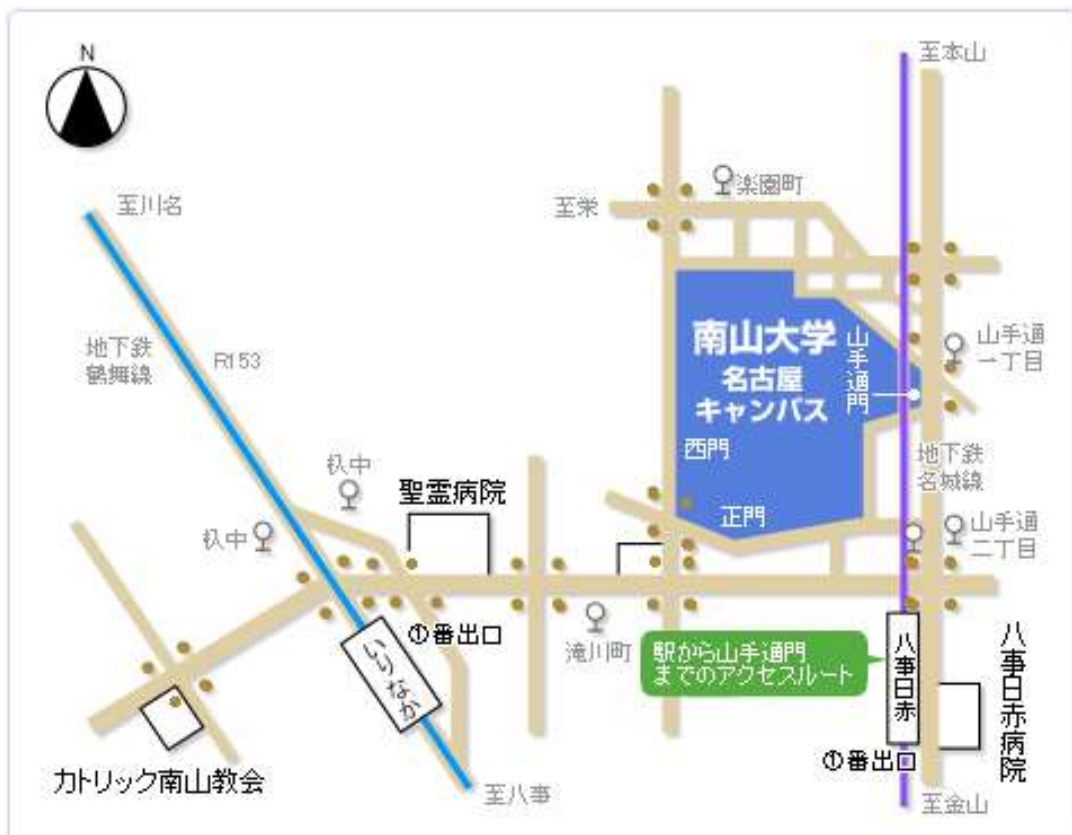
---

## 事務局からのお知らせ

- ☆ 駐車場はありません。公共交通機関をご利用下さい。
- ☆ 当日、第9回中部支部役員会(12:30~13:30)を行います。役員は同会場 R 棟 1F、会議室にご参集下さい。

## 会場アクセス

〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18 地下鉄名城線「八事日赤」駅より徒歩約8分



定例研究会に関するお問い合わせは、JACET 中部支部事務局までお願いします。

支部事務局:名城大学 藤原康弘研究室内

fujiiwara@meijo-u.ac.jp